

第1回若手消防団員交流会【概要】

日時：令和3年2月6日（土）

13:00～17:00

場所：イヤタカ 2階「ボストンBホール」

秋田市中通6-1-13

次 第

- | | | |
|---|-----------------------------------------------------------|--------|
| 1 | 開 会 | 13時00分 |
| 2 | 開会の挨拶
若手消防団員活性化推進チームリーダー 板橋 知也 | |
| 3 | 講演
「大規模災害時における地域防災のあり方について」
秋田県総務部総合防災課 主幹 宇佐美 晃市 氏 | 13時10分 |
| | 《休 憩 10分》 | 14時20分 |
| 4 | グループディスカッション | 14時30分 |
| 5 | 閉会の挨拶
若手消防団員活性化推進チームサブリーダー 佐々木 和寛 | |
| 6 | 閉 会 | 17時00分 |

グループディスカッション討議内容

【時間配分】

- | | |
|---------------------|-----|
| ①任務分担割り振り(進行、記録、発表) | 10分 |
| ②自己紹介、ディスカッション1回目 | 40分 |
| ③発表1回目(1グループ5分) | 20分 |
| ④ディスカッション2回目 | 30分 |
| ⑤発表2回目 | 20分 |

進行

所属	職名	氏名
若手消防団員活性化推進チーム委員 秋田市消防本部	消防士長	浅利 芳和
若手消防団員活性化推進チーム委員 大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防副士長	富田 洋介

グループ①

所属	階級	氏名
若手消防団員活性化推進チームサブリーダー 美郷町消防団	団員	佐々木 和寛
若手消防団員活性化推進チーム委員 横手市消防団	班長	新山 武
三種町消防団	団員	斉藤 俊樹
五城目町消防団	部長	佐沢 祐也
羽後町消防団	団員	高橋 巧

グループ②

所属	階級	氏名
若手消防団員活性化推進チーム委員 羽後町消防団	副分団長	石垣 亮
鹿角市消防団	団員	小笠原 崇嘉
八峰町消防団	団員	高橋 大樹
潟上市消防団	団員	星野 慧太
井川町消防団	団員	佐藤 奈菜子

グループ③

所属	階級	氏名
若手消防団員活性化推進チームリーダー 鹿角市消防団	班長	板橋 知也
大館市消防団	団員	田村 雄大
由利本荘市消防団	団員	鈴木 和磨
井川町 町民生活課	主査	湊 政彦

グループ④

所属	階級	氏名
若手消防団員活性化推進チーム委員 能代市消防団	部長	小沼 直久
若手消防団員活性化推進チーム委員 由利本荘市消防団	部長	有馬 祐平
北秋田市消防団	班長	小塚 恭平
秋田市消防団	班長	柏谷 宙斗
横手市消防団	団員	佐藤 大斗

グループ①

【テーマ】 消防団員のイメージ改善向上について

【消防団の良いところ】

①楽しいお酒

恋人以上家族未満(団結力がある。仲間の信頼がある)。
ほどよいユルさ。ユルさがないと楽しくない。

②地域密着

つながりが広がる。

③地域との交流

火事場、捜索等の出動で感謝の言葉がもらえる。やりがいを感じる。

④土地勘が良くなる

通常は、自分の担当している分団以外は分からないが、招集がかかって出動するとそこへ行き、その土地を覚える。

【消防団の悪いところ】

①「酒飲み消防」のイメージが強い。

②団員の技術(力量)がひとりひとり違う。(考え方の差が出る。意識が違う。)

③若い団員がいない。

④入団すると強制感がある。

⑤働き先が町外の為、緊急時でも出られない。

⑥家族が反対する。

⑦地域と消防団とのふれあいの場がほしい。

【向上改善するには】

①活動、福利厚生が明確に分かるパンフレットを作る。

- ・説明しやすい。分かりやすい。
- ・若い人に周知しやすくなる。
- ・消防団の必要性を分かりやすく伝えられる。

②イベント等を開催する。また、他の地域のイベントに参加して、地域との交流を図る。

- ・消防団の活動を知らせる周知活動になるのではないか。

③消防団とのふれあいを増やす。

- ・家族、友人知人とのふれあい(BBQ など)を増やすことでイメージの向上につながるのではないか。

④県単位だけでなく、県南地区、団単位、分団単位で交流会を実施する。

⑤近くの分団と合同で訓練を実施。(羽後町の例)

- ・技術や意識が違う。
- ・同級生がいるので仲間意識が増した。
- ・現場活動で他の分団と一緒に活躍できると思った。

⑥「酒」のイメージをどうするか？

- ・イメージだけで回数は減っているところもある。
- ・「酒飲みカレンダー」の作成・・・前年度の酒飲みの頻度をカレンダーに示し、「酒飲みはこれしかしていないよ」と明確にする。

グループ②

【テーマ①】 消防団活動に感じる課題、活動しやすい環境を作っていくためには

【消防団の課題の洗い出し】

- ①休日の活動や大会の準備等で負担が大きい。
- ②若い人がいない。そもそも人口が少ないので、若い人もいないし中堅もいない。
- ③イメージとして何をしているのか？誰が消防団なのか？周知されていない。
- ④消防団の活動自体も先輩から教えられる機会もなかったもので、わかりづらいことが多い。

【課題を解決する環境】

- ①地域の盛り上がり(お祭りや伝統行事等)には消防団員が多く参加している。地域の行事に積極的に参加して盛り上げることが消防団に入る人が増えることに繋がるのではないかと。
- ②「手当」について、現状は消防団活動をやりたくて入団している人が多いが、今後さらに若い人が入団するには、わかりやすい目標が必要。
この活動をしたらどのくらい手当が入るとか。ルールを設け、自分たちも若い人を誘う時にお金の面を話せると良い。

【テーマ②】 若手消防団員を増やしていくためには

①小さい時からの教育

- ・小学校の訓練に出向き、お父さんが消防自動車に乗って活動している姿を見れる機会を作る。ヒーロー的なイメージアップに繋がる。

②「飲み会」のイメージが強いので、回数を減らす工夫をする。

③会社側の協力

- ・会社に依頼して、消防団に入りやすい環境を整備していく。

④消防署と消防団の違いを広める

- ・消防車＝消防士のイメージが強いので消防団は別の活動があることを知ってもらう。
- ・方法として広報に消防団の活動を折り込んでいる団もあった。
フェイスブックや若者が活用するユーチューブ等の広告も良いのではないかと？

⑤操法大会が負担になる

- ・体を動かさずスポーツ的な面で若い人に広めていければ増えるのではないかと？

⑥わかりやすいメリットを提示する。

⑦ユルく活動ができる。

- ・人は増やして出動出来る時だけ出動してもらう。というスタンスにしていれば良いのではないかと。

⑧このような会を市町村単位で開催し、若い人のニーズを吸い上げ反映させる。

⑨近隣団体との連携。少なくともカバーできる体制づくり。

⑩活動に出てこない団員もいると聞いたので、少数精鋭でその分手当を充実させる。

グループ③

【テーマ】 消防団員のイメージ改善、向上について

【消防団の嫌なところ】

- ①プライベートが削られる。
- ②大会の練習など朝が早い等、負のイメージ。
- ③家族のイメージもあまり良くない。
- ④飲み会が多い。
- ⑤地元にいる若い人が少ない。若い男性がいない。
- ⑥入団のサイクルがある。退職者が次の団員を見つけるまでやめられない。
- ⑦消防団が何をしているかわからない。
- ⑧活動費が分団に取られる。
- ⑨大会や練習などの時期に、団員によって温度差がある。

【取り組み】

- ①消防団活動を地域に見せる機会を作る。
- ②子どもに PR する機会を設ける。
- ③活動費を増額して、団員にやる気を持たせる。
- ④体験入団。若い人が入ってこれるようにする。
- ⑤女性団員を増やす。やる気がある。
- ⑥学校で行う消火訓練へ消防団も参加して活動を見せる機会を作る。
- ⑦消防車両に子ども達を乗せてみる。

【消防団がこんなだったらいい】

- ①飲み会にルールを決める。
・お酒を飲む人、飲まない人で金額を変える等。
- ②両親との同居は子どもの面倒もお願いしやすく消防団活動に参加しやすいのではない
か。
- ③活動費が分団にとられるという意見が多かった。
- ④消防団のイメージ向上のために、家族を呼んでバーベキューをしている。
- ⑤活動費を貯めていくなどして、毎年 1 回みんなで旅行をする。家族も一緒だとお良
い。

【団員になって良かったこと】

- ①人との繋がりが広がった。
- ②活動を理由に用事を断ることができた。

【今後のお願い】

- ①装備は「カッコイイ」方が良い。

グループ④

【テーマ】 こんな消防団活動は嫌だ（こんなだから入らないのではないか？）

【どんなところが嫌なこと？】

- ①飲み会が多い消防団活動。ちょっとした活動でも飲み会というイメージが強い。
- ②若手を勧誘しても話を聞いてくれない。
- ③先輩団員から武勇伝を聞かされる（いつも同じ自慢話）
- ④5～8月の操法大会に向けたストレスの日々。憂鬱な気分になる。これがあるから練習に来たくない。
- ⑤大会終了後の空虚感。2ヶ月くらい活動がない。空しさ。
- ⑥貸与される備品（服）がすべてお下がり。
- ⑦出初め式、分列行進が寒すぎる。
活動服だけ。防寒着もなく肩、頭に雪が降り積もったまま待機している。
- ⑧近所の悪口を聞かされる。
（ある意味地域とのコミュニケーションが取れているということかも知れません。）
- ⑨行事への欠席の電話の罪悪感。
（非常にしづらい。）
- ⑩消防と仕事とどちらが大事？
（どちらも大事なので、どちらも辞めていない。）
- ⑪（結婚されている方）消防と私どちらが好き？（比べてはいけないもの。）
- ⑫「仕事が優先だよ」という分団長の目が笑っていない。（仕事を休んで出席しました。）

【これからどうする？分析と対策】

- ①飲み会の多い消防活動
→多いと思うが、広い目で見ると現場では命をかけて仕事をしているので少し大目に見ていくしかないのかな？しかたがない。
- ②お酒の席で近所の悪口を聞かされる。先輩から武勇伝を聞かされる。
→言わせておく。（介護しておじいちゃんの話聞くのと同じ。と思ひましょう。）
全体的に大目に見ていくしかない。
- ③消防と仕事どちらが大事
→消防団の活動に協力する事業所への手当を手厚くする。能代市はひとつの事業所に10人以上在籍している場合は10万円の手当を支給する。
限られたところだけではなく、金額の多い少ないではなく手当を出してもらえれば、若手の確保に繋がるのではないか。
- ④貸与される備品（服）がおさがり。出初め式の分列行進が寒すぎる。
→全県、各自治体で統一を求める。
- ⑤「仕事が優先だよ」という分団長の目が笑っていない。行事への欠席の電話の罪悪感。
→幹部に対するハラスメント講習を協会に求めていきたい。
- ⑥操法大会に向けたストレスの日々、操法が終了した後の空虚感。
→現状のままでストレスを感じて大会が終わったら空虚感を感じてもらう。消防で大事な時は仕事を休む。（でも、休むと一日の手間が飛んでしまいます。）

それでもやっぱり ボク達、私達は 消防団が大好きだ

最後に「消防と私どっちが好き？」の回答を司会が求められました。

消防活動は家族の支えがなければ出来ないが、いざとなったら家族を置いて出動する……答えは「なんとも言えません。」

【参加された皆さんの感想】

- ★とても良い機会となった。地元を持ち帰って是非報告したい。
- ★普段話すことのない分団の人達と話が出来て良かった。
- ★各地区の若手団員みなさんの意見が聞いて有意義な時間でした。とても良かったです。
- ★他地域の消防団の意見を聞くことができて良かった。
- ★市、町によって消防団の考え方が違い知ることが出来て良かった。
- ★市町村ごと、地域ごとの違いや共通点を認識できた。
- ★同じような年代だけでのディスカッションだったため、話しやすく本音で話すことができた。
- ★若い人の意見がたくさん聞いて良かった。
- ★同年代の他団体の人と意見交換をする機会がないため自分の活動以外のことを知れてとても良かった。
- ★男性の活動や意見では、あまり身近にないケースが多かったが実際に出動する機会の多い男性の文句的な意見が多いのが若手減少につながっているんだと感じた。
- ★市外の消防団員との交流機会は、ほぼ皆無なので非常に有意義な時間でした。
- ★自分たちの団の中だけで話し合いをしても得られないものがこの交流会にはありました。今後こういった機会を設けていただければ消防団という組織そのものの向上につながるのではと思います。
- ★他の分団の話、状況、意見等を知ることができた。
- ★話しやすい内容でディスカッションをすることが出来た。
- ★普段の話せない内容を共有でき、大変良かった。
- ★他の団の方々の意見、他の団の状況を知れて良かった。是非また開催してほしい。
- ★非常に良かった。意見を出せるか不安であったが、やってみると以外と出せた。
- ★各消防団の現状や団員の増やし方について色々な対策を取っている事が分かった。今後の参考にしていきたい。

【講演】

- ★災害地支援等のリアルな話が聞いて改めて消防団活動に意欲が湧きました。
- ★次の3月で東日本大震災から10年を向かえ忘れないためにも当時現場を知っている宇佐美さんの経験等を聞いて良かった。
- ★東日本大震災は、自分はまだ高校生で秋田県や被災地の消防団の方々どのような活動をしていたのかなど考えたことはありませんでした。宇佐美氏のお話を聞き、その当時自分が消防団員であったなら何ができたのか。自助、共助の気持ちを貫けたのか考えさせられました。
- ★消防団としてのあり方を講演で聞くことができ、自分の活動に誇りを持つことができた。

【質疑応答】

★5日間に亘る活動で身心共に消耗されたと思います。派遣から戻って自分のためにケアしたことは何かありますか？

今、よく言われる「惨事ストレス」というのがあります。当時、我々もあのような被災現場は初めてでした。秋田市は全員が産業医を受診しました。心のケアが大切ということでした。今もそう思います。

皆さんもいろんな現場へ行かれると思います。悲惨な現場もあると思います。心のケアは必要です。「ちょっとおかしいな。」と思ったら誰かに相談してください。私も「常に人と話せる。」という環境を作るようにしています。

★消防団として、災害現場で「この行動だけはしてはいけない。」ということがありますか？

難しい質問です。消防団員として活動する前に、自分の安全を確保する。自分の命を守る行動を先に取りてください。

この人を助けることによって、自分が死んではだめなのです。「共助」です。殉職だけはあってほしくありません。自らの命を守ってこそ、人の命を助けられる。ということの隅に置いてください。

『危ないかな？』と思ったら何をするのか。一本のロープをつけることによって自分の命が守れる。もしくは、もう一人隊員を呼べば助けることができる。

どこかで一旦冷静になれるところを持っていただけるといいのかな。と思います。

【次回開催のテーマや希望】

- ★各地区での活動内容や仕組みが各々違うと思いますのでもっと掘り下げて話をしたい。
- ★小学生、中学生の考え等をアンケートとって話し合いしても面白いと思います。
- ★各市町村に若手組織があればニーズを上世代に伝えることができ、若手団員の加入や盛り上がりにつなげることができると感じる。
- ★今日は懇親会がなくて残念でした。後日、希望者のみでも改めて開催してもらいたい。
- ★今回と同じ内容でいいと思う。自分も頑張らないといけないと思った。
- ★大災害の対応についてディスカッションしてみるのはいかがでしょうか。コロナや大雨、大雪、震災の際に若い団員ができること。意見を聞きたい。
- ★消防団員からの活動、体験発表なども面白いかと思いました。
- ★男性と女性で出来る活動はやはり違うと思うので、男性団員が減っていくことは阻止したいと改めて思った。
- ★現場活動についての話題も聞きたい。
- ★消防団のイメージ、改善については次回も行った方が良いでしょう。
- ★悩みごとに対してアドバイス、回答が共有できる会をやりたい。
- ★各団、分団の特徴、活動の発表。
- ★各団、分団の現地視察。
- ★被災地、防災先進地域への視察。
- ★地域との交流を取るために消防団として出来ること。
- ★団員のモチベーションの上げかた。

【若手市消防団員活性化推進チーム委員の感想】

【リーダー】鹿角市消防団 班長 板橋 知也

- ★やって良かった。思った以上に活発な意見が出て本当に良かった。
- ★ある程度示しておけば、各グループそれぞれでテーマ以上の事を考えてくれていたと思います。

★板橋リーダー 開会のあいさつ(要旨)

本日の第1回若手消防団員交流会は、県内各地で活躍する若手団員が集まり、日頃の活動で思うこと、やりがい、改善していきたい点について意見交換していただき、県内若手消防団員のネットワークの構築や皆さんの消防団活動に対する意識醸成に繋がればと思っています。皆さん肩肘張らず、ざっくばらんに意見交換していただければと思います。

能代市消防団 部長 小沼 直久

- ★良かった。コロナ終息後、盛大に行いたい。
- ★初対面ながら活発な意見が出て有意義であった。
- ★次回は、テーマをしぼって「他地区の団員勧誘方法」。

由利本荘市消防団 部長 有馬 祐平

- ★有意義な話合いで良かった。
- ★いろいろな団の意見が出たので良かったと思う。
- ★男女平等な会でいくとすれば女性参加者を増やす。

★ディスカッションでの有馬委員の意見

消防団は、地域密着であるということ。職業柄地元の農家を回るが消防団関係者もいる。繋がりを大事にしている。PTA関係など、いろんなことをお願いされる。そういう繋がりが好き。

横手市消防団 班長 新山 武

- ★他消防団との意見交換ができて良かった。
- ★グループディスカッションという形での開催で情報を共有しやすく内容は良かった。
- ★今回は男性参加者が多かったので、女性消防団を増やしてみてもどうか。

羽後町消防団 副分団長 石垣 亮

- ★良かった。最初の会としては、やりやすかった。
- ★次回も今回の感じで良いと思うが、専門的の研修的なことがあっても良い。

★ディスカッションでの石垣委員の意見

初めてなのに、たくさんの貴重な意見が出て分団に持ち帰りたい。この意見を発信していければ秋田県の消防がよくなるのではないかな。よい起爆剤にしていければと思いました。これからもこの会を続けてほしい。

【ディスカッション進行・総合司会】 秋田市消防本部 消防士長 浅利 芳和

- ★開催出来て良かった。
- ★いい雰囲気です討議できたのではないかと。

★浅利委員 ディスカッションの感想

イメージアップが必要という意見があったが、昨年作成の県のパンフレットは委員がモデルになっています。活用してください。(美の国秋田ネット 秋田県防災ポータルサイト 消防団員の募集または(一財)秋田県消防協会 HPの消防団員募集をご覧ください)
市町村単位でもこのような会を開催し、横の繋がりを増やしていくことが重要なこと。
今後もこのような機会で見解を出し合い、団員の確保に繋いでいければと思います。

【ディスカッション進行】 大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 消防副士長 富田 洋介

- ★消防団に対する負のイメージを払拭しなければならない。(酒飲み等)
- ★消防団活動と対価について正しく知ってもらう必要がある。無償というイメージが強い。
- ★活動内容を知らない人が多い。対策として、小・中学校の教育現場で防災教育の一環として消防団活動について詳しく触れ、理解してもらう等。
- ★全県で情報共有することで各消防団の底上げにつながる。(良い制度が普及するなど)

★富田委員 ディスカッションの感想

本日、来れなかった活性化推進チームのメンバーの中で女性の消防士がいらっしゃいます。自分は平成20年に消防士になりましたが、女性の消防士が初めて秋田県に採用になった時でした。女性で大丈夫か？現場で活動出来るか？というイメージが先行していたのですが、今10年経って女性の職員は「当たり前」という状況になっています。
今日、いろんな問題意識を持たれたということで、これを常に問題意識を持っていくと10年先にもしかしたら消防団員が増えているのではないかと？そんな感想を持ちました。

【サブリーダー】 美郷町消防団 団員 佐々木 和寛

- ★とても良かった。
- ★講演も聞きやすく、消防団活動を再認識することが出来た。
- ★次回は、「もしイベントをやるとしたら、どんな内容にしたらいいの？」を聞いてみたい。

★佐々木サブリーダー 閉会のあいさつ(要旨)

第一回目ということで、不安もありましたが、活発な意見交換会となりました。
開催して本当に良かったと思っています。
消防団同士の横の繋がりを作ることで、良い環境を知ることが出来、自分の地域にプラスになることが沢山あります。
まずは秋田県を盛り上げるために、ここから繋がりを持ち、楽しむことで消防団のイメージを変えていきましょう。